

5月の生活表

2023年 5月

聖マリア幼稚園

年主題：つながって ～今、わたしを生きる～

月主題：動き出す

保育日数（20日）

月目標：＜3歳児＞

- ・日常生活の中で保育者や友だちと賛美し祈り、神様を身近に感じる。
- ・新しい環境や関わりに安心し、色々なことをやってみる。
- ・自然の中で心を解放し、心地よさを感じながら動き出す。

＜4・5歳児＞

- ・祈りや聖書のお話、賛美を大切にし、神さまがいつも一緒にいてくださることを喜ぶ。
- ・やってみたい遊びに自分から動きだし心を向ける中で、友だちや保育者と共に過ごすことを喜ぶ。
- ・身近な自然（風・光・水・泥・土・草花・虫等）を心地良く感じ、見たり、触れたり、試したりする。

新緑が眩しい季節になりました。25日の遠足は残念ながら2日に延期になりましたが、植物園のさまざまな木・樹はさらに緑深くなっているのではないかと楽しみでもあります。さて、子どもたちはと言いますと、それぞれの関わりの中で、お互いを知り始め、手を差し伸べての助け合い。ちょっとどうして手を差し伸べて良いのか戸惑っている先輩たちも「やってみる」ことでその頃合いを体得していきます。困っている人が隣に、前に居ればなんとかしてあげたいというそのお友だちの心もちを小さい時から汲み取れるようになって欲しいなあと思っています。そんな中で、「やってみたい遊びに自分から動き出し、心を向ける中で友だちや保育者と共に過ごすことを喜ぶ」と私たちの教科書の「月の願い」に示されています。これは正しく、大切な人的環境の中で育ち、その中に自らが主体的に（＝責任を持って）関わっていくと言うことです。これは自由遊びのみではありません。全員に投げかけられる「設定保育」＝その活動の中で担当が「ねらい」を持つ＝こんな風になって欲しいなあ、と願う姿に子どもたちが人・物を通して自分がやってみたい気持ちになると言うことです。「動き出す」ためにはまず心が動かなければなりません。心が動いてもすぐに行動に移せず、周りから眺めていることも多々みられます。でもそこで、周りの者がその子の心もちにどのように触れてあげようとするのか、お互いの気持ちを小さいながらも推し測りながら、関わりを持っていくことの大切さです。動き出すために、心を穏やかに保つ為には、日々の生活習慣が何よりも大切であると言われていました。「今日はやめておく」とか「このYouTubeをもっと観たい」と言ったようなことは、子どもの主体性でも何でもありません。

「我まま」の類になりますね。年齢に応じて、自分を律する術、心を養っていった欲しいと思います。その時には周りの大人の「声かけ」が大切な役目を果たします。自然界の息吹も大きく動き出しています。私たちは心して動き出せる日々を過ごしたいと考えています。

《チャプレンコーナー》

年主題：つながって ～今、わたしを生きる。～

年聖句：主がすべての災いを遠ざけて、あなたを見守り、あなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも帰るのも、主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。（詩編121：7-8）

月聖句：主よ、お話してください。僕は聞いております。

（サムエル記上 3：9）

イエス様が生まれるより、ずっとずっと昔の物語です。後の大預言者、サムエルが少年だった時のお話です。サムエルは母親の信仰により、幼少より親元を離れ、神殿の祭司に預けられて成長しました。サムエルは信仰深く、神殿の聖所で寝泊まりしていました。ある夜、サムエルが寝ていると、彼を呼ぶ声が聞こえました。サムエルは祭司が呼んだものと思い、祭司の部屋に行きました。「祭司様、お呼びになったので参りました。」「私は呼んでないよ。かえってお休み。」「このようなやり取りが三度ありました。三度目に祭司は、サムエルを呼んだのは神様だと気づきました。祭司はサムエルに言いました。「次に名前を呼ばれたら、お祈りしながら『主よ、お話ください。僕は聞いております。』と言いなさい。」「サムエルが部屋で休んでいると、再度、彼を呼ぶ声が聞こえました。祭司が教えてくれた通りに言うと、神様は、これから起こることをサムエルに語ってくれました…。

この場面の聖画が、幼稚園にも飾ってあります。斜め上から差し込んでくる光に、手を合わせているの子ども姿が描かれています。一度探してみてください。かつて私は、「子どもの声が聞こえない」という悩みがありました。子どもの語る声が、耳には入るのですが、頭に入ってこないのです。そこで私は、反省し、子どもたちの目を見て、心を子どもたちに向けて、子どもの話を聞くようにしました。すると少しずつ子どもの話が聞こえてくるようになりました。

人の話を聞くことは大事なことです。人の話は、耳だけではなく、心でも聞くものなのかもしれません。心を寄せて、肉体の耳と、心の耳を、子どもたちに向けていきたいと思います。

おたんじょうび おめでとうございます

<生活指導>

§ 気温の差を考慮しつつ健康には十分気をつけましょう。

- ・新学期の疲れがそろそろ出てくる頃でしょうか。規則正しい生活と、バランスのとれた食事を心がけましょう。
- ・帰宅後の手洗い、うがいをしっかりしましょう。お風呂（シャワー）・シャンプー・耳あか・爪切りなど、清潔に保つ術を子どもたちにも知らせてください。

§ 神様のお恵みに感謝しましょう。

- ・登降園の道々で神様が下さった命を探し、命あるものを大切にしてみましょう。
- ・幼稚園の送迎を通して四季（春から初夏への移り変わり）を感じてみましょう。

§ 自宅でも、自分で出来ることを探し、自信が持てる機会を作りましょう。

- ・身辺自立に向かって一つずつ挑戦し行き届かないところは手伝ってあげましょう。
- ・大便の後始末が出来るように、また紙の使い方もご家庭で教えてあげてください。（特に女子は、菌が入らないように拭き方に気をつけましょう。）

§ 母の日を通して、身近な人たちのことを考えてみましょう。

- ・家族の名前・年齢・仕事などを知らせ、みんなの働きによって日々の生活が成り立っていることを知らせましょう。
- ・大好きなお母さんのお仕事に触れ、喜んでいただけることを考えてみましょう。

§ お友だちと仲良く遊べるようになったらいいのにね。

- ・GWを始め、休日の間もお友達のことを考え、お電話しあってみたり、思い出しながらお祈りしてあげるのもいいですね。

<クラス担任より>

[花組]

「せんせい！アリさんみつけたよ～！ほらほら！」初めて園庭に遊びに行き、『お庭のお約束』をみんなですっかり見聞きして...さあ！遊ぼう！螺旋滑り台が楽しくて大はしゃぎしたかと思えば、小さなアリさんに心を奪われていたりして、子どもたちは大忙しです。

5月、爽やかな心地のよい季節です。お日様さまが眩しいけれど、ツバメさんに出会う前に半袖になりたくなるなんて、夏が飛び越してきてしまうんじゃないか！？と思え

ば、また肌寒くなって「あれ？暖房が必要？」と悩む今日この頃。まだまだご自分で衣服の調節が出来ない花組さんです。その日その時の状況や気温で衣服を選んででもまたお着替えが必要なこともあります。気温や園庭遊びに関わらず水分補給も重要です。子どもたちが健康で元よく毎日過ごせるように留意したいと思います。

さて、入園から早1か月が経とうとしています。園生活（集団）が全く初めて、というお友だちが一人もない花組さん。幼稚園に慣れているものの、先生も保育室も変わりましたので、それは子どもたちにとってはとてもとても大きな変化です。何とも言えない緊張と不安が入り混じって、ご自分の思いや要求を思うように言葉や行いで表現出来ずに困っている姿も見られました。そんな思いを一つ一つ紐解いて、一歩前に進むと...自然と笑顔がこぼれて、突然「〇〇ちゃんな！」と堰を切ったようにお話しを始めてくれて、思わず「ヤッター！！お話してくれたね！！」と声を上げたくなるのをグッと抑えて「うんうん」とそのお話に集中。こうしたやり取りが日毎に増えてゆくのがとても嬉しいです。今まで経験してきたことから更に一歩前に進んで取り組んだ制作も、出来上がりの作品が可愛らしく素敵なことはもちろんですが、出来上がってゆく過程で子どもたちがどれだけ先生のお話を真剣に聞いて、先生のお見本をじっと見つめて、ご自分の手先を一生懸命に考えながら動かして...そして出来上がった瞬間にどれだけ嬉しそうなお顔で「出来た！！」と満足感を得てホッと安心したのだろう。初めての素話はみんながよくよく知っているお話だけれど、真剣に目をクリクリさせて先生をじっと見つめて、お話の展開も結末も知っているはずなのに、ドキドキワクワクして思わず身体をビクンとさせる程に集中して...何と素直で何と想像力が豊かなのだろう。こうして沢山の喜びや楽しさを毎日積み重ね、今はまだ一人一人ご自分のことで精一杯の子どもたちが、隣にいるお友だちのこともしっかりと心に留めて、関わり交わり思いやって、いろいろな思いを共有できるように。人に寄り添える...そんなクラスになって欲しいと願って、毎日の園生活を大切に歩んでゆきたいと思います。そして、忘れてはならないとっても大切に嬉しいこと...毎日の朝のお礼拝で歌う聖歌にもある通り「わたしたちはちいさくてもおめぐみなさ～るうかみさま～」神様が私たち一人一人を愛して下さっていることに感謝しながら毎日を過ごしたいと思います。

【動き出す】 今月の月主題です。花組さんにピッタリです！5月より新たにお二人の小花ちゃんをお迎えます！嬉しいですね！元気いっぱい！前へ前へとしっかりとした足取りで**【動き出す】**子どもたちの姿をどうぞお楽しみに。

一年間、保護者の皆様にはご理解とご協力を賜りながら、ご家庭との連携を大切に、子どもたちを真ん中にして二人三脚で園生活を守ってゆきたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます

【赤組】

「桜の花びらたくさん集めたよ～見て～」と器に集めて見せてくれていた新学期。そんなやり取りをした時からあっという間に桜の木は葉桜へとバトンタッチし、新緑の眩しい季節になりました。

赤組さんに進級し園庭にすぐ飛び出せるようになった子どもたち。朝のご準備をご自分たちで終え「お庭行ってきまーす！」と元気良くお玄関へと向かいます。向かう途中で「あ！水筒忘れた！」「あ、上履きもや！」と急ぎすぎて忘れていた、園庭へのご準備もご自分たちで気が付きます。「まあいっか」と、決して面倒くさがることなく一旦戻るので。後回しにしていなくて感心しました。これは花組さんの時の当園での生活習慣がしっかり身につけており、過去の経験があるからこそだと思います。このような昨年度に体得したことをベースに、赤組ではさらにステップアップできるようにと思っています。その為には、個々にまたみんなと沢山関り、対話し、遊び、生活する中でどんどん子どもたちを知り、主体的に様々なことを考え経験し、成長出来るように援助していきたいと思います。子どもたちは自分のことに気づいて、認めてもらえる喜びを感じ、大事にしてくれる存在がいるということで安心して伸び伸びと活動できます。困ったら助けてくれる先生がいるんだ！教えてくれる緑組さんがいるんだ！一緒に頑張るお友だちもいるんだ！おうちに帰ると優しく包み込んでくださるおうちの方々がおられるんだ！と自分の周りにはたくさん安心できる場所があるんだと感じて欲しいと思います。私も赤組のお友だちの新しい気づき、発見を見逃さず、色々な声に耳を傾け、寄り添って見守っていきたくと思っています。みんなが安心できる居場所となるクラスになればと願いながら一年間を過ごしていきたいと思います。未熟者で至らぬ点多々あるかと思いますが、保護者の皆様のご指導、ご協力をいただきながら頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、赤組さんになって3週間が経ちました。今までは先生がお手伝いしていたことも自分のことは自分で出来るように、と少しずつ新しい取り組みを始めています。まずは「お当番さん」です。最初は緑組のお姉さんたちにお手伝いしてもらっていましたが、今週から本格的に活動を始めました。お昼前に「お当番さんよろしくね～」と声をかけると「いってきま～す」と2階へ。お布巾や先生のお箸・コップを載せた「お盆」と「おやかん」を落とさないように、こぼさないように、みんな慎重に、真剣な顔で階段を降りてきます。「pre-preちゃんに“かっこいい～、って言われたわ」と得意気で嬉しそうに教えてくれました。次に「うがい」です。「食事が終わった後に、口の中を綺麗にするため」と話すと、去年の赤組さんたちを見て知っていた子どもたちは「あ！歯磨き」と、気が付きました。さすがです。でも初めは、歯磨きの前にうがいからのスタートです。口に水を含み「ガラガラペー」でなく「グチュグチュペー」で、口の中を濯ぐ練習です。そして、いざ実践！みんな本当に上手なので驚きました。赤組になって環境が変わり、緊張の毎日の中でも、新しいことは躊躇せず「やりたい！」

と意欲的な赤組さん。その目と顔はとっても頼もしく可愛らしいです。これから沢山のことを一緒に挑戦していきたいと思います。

今日持ち帰って頂いた「鯉のぼり」は自分の「お道具箱」の中の「糊」を使って制作しました。糊の扱い方の説明で「使うお指は、」と私が続きを言おうとした瞬間「お母さん指！」とみんなに先をこされてしまうほど、もうバッチリです！鯉のぼりの鱗の貼り方の説明をし、また向きを揃えて貼ることのみは限定しつつ配置は自由にしました。説明する際、鱗も目もつけていない鯉のぼりを見て「のっぺらぼうや～」と反応する子どもたち。「服を着せてあげなくっちゃ！」「前も見えるように目もつけてあげなくっちゃ！」と子どもたちの反応に答えながら、前で実践し説明していると食い入るように聴く姿がうかがえる赤組さん。制作が始まると黙々と取り組み、「ここに服着せてあげよ」と言いながら貼っていました。出来上がると「スイスイ～」と泳がせながら満足気に持ってきてくれました。どの鯉も可愛らしい素敵なお鯉のぼりです。ぜひお家でも泳がせてあげてください。

来週に順延になった春の遠足。クラス懇談会もごさいます。どうぞ、よろしくお願い致します。来週は、お日様が顔を出してくれることをお祈りし、緑組さんと一緒になって季節のお花や虫を見つけられるといいなあと楽しみにしています。

[緑組]

ホールの大きなカラーブロックは、大人が運んでもそれなりの重量で、子ども一人で運ぶには苦勞する大きさです。このカラーブロックを易々と運び、それに限らず持ち上げて重ねるのも「みどりぐみさんって、凄い！」と思わせる、子どもにとっての憧れpointのようです。だから、進級を控えた3月頃、赤組だった子たちが「私も運べる！手伝わなくていいから」と一緒に重ねようとする友だちを腕で制して、自分の背丈をこす2段重ねに挑戦しようとする姿が見られたのは、4月からは自分が「緑になるんだ！」という意気込みと気合いの表れでした。その「緑組の印」が、いよいよ自分たちの胸につけられた日の子どもたちの想いは...どんなものだったのでしょうか。それは特別のものではない、いわば普通の桜型の名札です。でもその色が示すものは、子どもたちの憧れであり、これから始まる日々への期待と戸惑いとちょっぴりの不安でもあります。今まで見てきた「みどりぐみさんって、凄い！」をこの子たちが示していくくれるのですから。そんな、緑組への願いは大きくは2つです。まずは、生活リズムを一定にし、自律することです。つまり時間を大切に自分のすべきことは自分の責任においてしようとする気持ちですね。進級してすぐではありませんが、一年後の今は小学校であることを考えると...「だってママが...」「だって、〇〇が...」がどこまで通じるのでしょうか？登園時間、荷物の準備、お手伝い...etc自分の好きなことだけを「緑になったから！」と頑張るのではなく、これを機に家族の一員として役割をもって「責任を持つ」ことも自律

へのステップです。二つ目、他者理解です。人（友達）を知ることは自分を知ることでもあります。自分の想いだけを主張するだけではなく、同じ環境において、人それぞれに感じ方も考え方も違います。なかなか上手に言葉や態度で表せないことも「表現」のひとつです。そして必ずしも答えは2択ではないということです。人の感情は、理屈では説明できない曖昧さがあり、その感情を互いに推し量りながら（それは子どもであっても）折り合いをつけようとしています。その解決は、時にうまく行くときもあれば、納得のいかないときもあるでしょう。だからこそ「感じること」「想像すること」が大切なのです。そして、子どもが感じているものに多様な可能性を含めた言葉がけを大人は努めたいものです。

幼稚園生活最後の1年。泣いて笑って、時には怒り怒られ、たまには地団太踏んで...子どもが子どもでいられる時間はわずかです。真面目になりすぎず、子どもの育ちを時には客観的に「見守る」余裕をもって向き合っていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。